

おわりに

本書は科研「牧畜社会におけるエスニシティとエコロジーの相関」(EE 科研)の研究成果の一部であり、JSPS 科研費 JP17H04538 の助成を受けている。EE 科研は、人間集団同士のエスニックな関係と、人間と自然のエコロジカルな関係とが、牧畜社会においていかに規定しあっているかを人類学と歴史学的な側面から解明しつつ、非西洋的な共存論理を提示することを目指してきた。

5 年間、我々は海外調査に加えて国内でも以下のように毎年研究会を重ねてきた。

2017 年度研究会、6 月 24 日～25 日、慶應義塾大学
2018 年度研究会、6 月 23 日～24 日、金沢大学
2019 年度研究会、5 月 11 日～12 日、東京外国語大学
2020 年度研究会、6 月 06 日～07 日、大阪教育大学(オンライン)
2021 年度研究会、7 月 24 日、熊本大学(オンライン)

研究会には外部講師として専門家を招聘し、基調報告をしていただいたり、コメンテーターを務めていただいたりしたことで、研究が一層促進された。参加してくださった、佐川徹氏(慶應義塾大学)、松井健氏(東京大学名誉教授)、坂井弘紀氏(和光大学)、楠和樹氏(京都大学)、中野歩美氏(関西学院大学)、秋山徹氏(早稲田大学)、岩本佳子氏(長崎大学)、宮本佳和氏(国立民族学博物館)に深謝申し上げます。

この過程で 3 つの成果物を刊行した。(1) 雑誌『地域研究』(2020、第 20 巻第 1 号)における特集「牧畜社会における集団観の時空間分析」。(2) シンジルト(2021)『オイラトの民族誌：内陸アジア牧畜社会におけるエコロジーとエスニシティ』明石書店。(3) シンジルト・地田徹朗編(2021)『牧畜を人文学する』名古屋外国語大学出版会。以上の 3 つである。

本書は EE 科研の 4 つ目の成果物になる。これまでの経験を踏まえ、我々は歴史学的なアプローチを強化し、ユーラシア以外の地域にも着目し牧畜の多様性を重視した。オスマン朝史研究の岩本佳子氏と中央ユーラシア近現代史研究の秋山徹氏、南アジアの移動民研究の中野氏とアンデス牧畜研究の佃氏、そして東アフリカ牧畜研究の田川氏に本書の執筆陣に加わっていただいた。5 名のご参加によって、研究アプローチと地域的なバランスが改善され、「牧畜世界」を全体的に描くことができた。

本書は EE 科研の社会貢献の一環である。だが、写真を通して自らの研究を表現した経験は執筆者 12 人の誰にもなかった。それを可能にしたのは、それぞれのフィールドで撮影に快く応じ、インタビューに協力下さった方々、また、時に研究会のコメンテーターまで務め、我々の作業を力強く後押しし、アイデアを出し続けてくださった風響社・社長石井雅氏の存在である。お世話になった全てのみなさんに重ねてお礼申し上げたい。(シンジルト)

目でみる 牧畜世界：21 世紀の地球で共生を探る

2022 年 2 月 10 日 印刷

2022 年 2 月 20 日 発行

編 者 シンジルト

発行者 石 井 雅

発行所 株式会社 風響社

東京都北区田端 4-14-9 (〒114-0014)

Tel 03(3828)9249 振替 00110-0-553554

印刷 モリモト印刷

装丁+レイアウト：オーバードライブ・前田幸江

地図：ささやめぐみ